



○ 人手不足について ○ 勝山高校とまちづくりについて

新風会・公明
竹内和順
議員



その他の質問

- ・子ども家庭庁の取組に対する市の子ども政策について
- ・地域文化財総合活用推進事業について

議 日本の人手不足は年々深刻化しており、勝山市のような地方は特にその影響が大きい。その解決方策としては、企業自身に求められるもの、行政として何かできないものか。勝山の活性化は企業が元気であることに尽きると思う。人手不足の方策として市の見解を伺う。

理 市は中小企業診断士、そして勝山商工会議所とともに、相談のあった事業所に対して、産業フェアでの企業PR、SNSを活用した情報発信、県内高校や大学等への売込みなど、それぞれの事業所に合わせた対策を助言している。

その他、市内事業所でのインターンシップの受け入れや、ウェブ企業説明会・面接会等を行っており、中でも令和2年度から開始しているウェブ企業説明会・面接会がきっかけとなり市内の事業所に就職された方も始めている。市も、市内事業所の活性化が市の活性化につながることを十分に認識しており、今後も人材確保の対策について、継続して事業所と協力しながら、個別に対応していく。

議 中山間地域の定住人口維持要件として、高校の存続・存在が大きな影響を持つと言われている。このところ勝山高校の定員割れが続いていることを危惧する中、勝山市立新中学校建設が勝山高校との併設であることを大いに期待しているが、まちづくりの観点から市の見解を伺う。

理 新中学校が勝山市の教育の中核となり、中高連携を通じて、中学生が勝山高校の探究学習をはじめとする教育活動に触れ、学ぶことができる。これにより地域への関心をより高め、資質能力の向上に結び付けていくことが小学校の学びに波及し、これまでの小中学校の取組をさらに高めへと進ませることができると考えている。

勝山の生徒がふるさと勝山への愛着をベースとし、それぞれの関心に応じて探究活動を深く進めることは、勝山市の持続的な発展にもつながるものと考えている。また、このような活動が市民と子どもたちを結びつけ、若い世代の意見が市政に反映されるなど、まちづくりにつながっていくものと考えている。



○ 中学校再編計画について ○ 北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた勝山駅のワクワク感について

優政一心会
浦上雄次
議員



その他の質問

- ・小規模多機能自治の周知と具体的な進め方について

議 新中学校建設後、地域から学校が無くなった後はやはり移住定住が減っていき、お店などできにくくなると予想されるが、それについて市はどのように考えているのか。スクールバスの具体的な計画は市民にいつ頃提示される予定なのか、市の見解を伺う。

理 令和4年6月に策定した「改定」勝山市都市計画マスタープランでは、まちづくり会館等の機能充実による地域コミュニティの維持と活性化を図るとともに、市街地ゾーンとの交通ネットワークを強化し、除雪体制の強化や身近な都市基盤の整備と維持管理を十分行うことで地域での暮らしやすさを高めることを定めている。これら計画の取組の方向性と土地利用の方針に基づき、各地域の特長を生かし、地域とともに持続可能な活力あふれるコミュニティづくりに努めていきたい。

スクールバスについては、12月に第2回のPTA部会を開催し、協議を行う予定である。協議内容はその都度、新中学校建設特別委員会へ報告し、方向性が固まり次第、市民の皆様にも説明していきたい。

議 「勝山駅に降り立った瞬間にドキドキワクワクするような駅であってほしい」令和6年3月16日の北陸新幹線福井・敦賀開業後、えちぜん鉄道勝山駅の利用者は増えると予想されているが、観光客はもろろんのこと、市民も立ち寄れるような駅の活性化が必要だと考えるが今後の取り組みについて市の見解を伺う。

理 えちぜん鉄道株式会社や地域DMO、周辺の事業者等と連携しながら、ソフト面での恐竜の魅力を感じることができるイベントの実施など新たな取組についても検討していきたい。また、これまで駅前の賑わいを創出するため、市内の市民団体の方々が主催するマルシェなどのイベントが行われてきたが、そのようなイベント等の開催に対しても、ちよいちチャレ応援事業やわくわくクラウドファンディング応援事業の活用による市民、市民団体による取組を後押しし、全国から県立恐竜博物館を目指して来られる多くの観光客が降り立つ玄関口となるよう活性化を進めていきたい。